

第22回 市民動物園会議

会 議 録

日 時：平成26年11月28日（月）午後3時開会
場 所：円山動物園内 動物園プラザ

1. 開 会

○事務局（田中円山動物園長） 定刻までちょっと時間があるのですけれども、委員の皆様全員がおそろいですので、ただいまから、第22回市民動物園会議を開催させていただきます。

2. 挨拶

○事務局（田中円山動物園長） 開会に先立ちまして、今井みどり環境担当局長より、一言、ご挨拶を申し上げます。

○今井みどり環境担当局長 みどり環境担当局長の今井です。

皆様には、いつも本当にお世話になっております。

11月末ということで、私がこの3月まで担当していましたミュンヘン・クリスマス市というイベントを大通2丁目でやっていますが、こちらがきょうからのスタートということで、来月1カ月を残すことになりました。

動物園の関係では、ここ2、3日、象の関係について道新なんかでは一面に取り上げられておりましたけれども、そういう話題も出ております。それについては、後ほど事務局からご説明させていただきます。

また、前は6月30日に市民動物園会議を開催させていただいたのですが、そのときにもその時点の入園者の状況を簡単にご説明させていただきました。残念ながら、先週段階でも、昨年度と比較して大体11%減であり、人数にすると大体10万人ぐらいを下回って推移しております。

そういう状況もございまして、当初は予定していなかったPRなんかも積極的にやっています。また、今年は日本女性会議という北海道で初めて開催しますが、日本全国から各界で活躍されている女性が来られました。その会場でありますコンベンションセンターで動物園のブースを出して動物園のPRをしたりグッズ販売をしたりして、露出を高めました。

また、ご存じのとおり、ホッキョクグマの子どもの2匹が昨年から徳島と熊本に行っておりますけれども、熊本に行っているマルルの成長報告を兼ねて、熊本県からくまモンに来ていただきました。あわせて、動物園の職員にも来ていただき、成長の報告をするというイベントをやりました。ここにいる皆さんは知っていると思いますけれども、集客がかなりありました。結果としては、先ほど申し上げましたように10%余りを下回った状況にございます。

そうは言うものの、後ほど、冬のイベントについても説明があるかと思いますが、最後まで職員一丸となって引き続き取り組んでいきたいなと思います。

きょうのこの会議は、委員の皆様には、忌憚のないご意見やアイデアを出していただいて、我々はそれを運営に活かしていきたいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（田中円山動物園長） それでは、議事に入ります前に、本日、皆様が初めてお目にかかります八木委員に、一言、ご挨拶を頂戴できればと思います。

○八木委員 八木と申します。

ずっと長らくこの会議の日程が合わずに、本日、初めての参加となります。これまで、大変失礼いたしました。

月刊「p o r o c o」と全国誌の「北海道生活」の2冊の雑誌の編集長を兼務していますが、時間がとれなかったのですが、現在は「北海道生活」編集長の専任となりました。

また、編集局長として、札幌市のさまざまな会議など、体外的な活動も積極的にさせていただきますので、これからは欠席しないように頑張っていきたいと思っています。

よろしく願いいたします。

○事務局（田中円山動物園長） どうもありがとうございました。

早速ですが、次第に従いまして、議事に入らせていただきます。

以降の議事進行は、金子議長をお願いいたします。

2. 議 事

○金子議長 酪農学園大学の金子です。きょうもよろしく願いいたします。

今、局長からお話がありましたように、ゾウの導入の方向性が決まったということで、資料を読みますと、平成30年ということですね。まだ数年ありますけれども、私どもも札幌の子どもたちも非常に楽しみにしているのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。私たちが動物園の応援団として頑張っていきたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、早速、議事に入っていきたいと思っています。

お手元の資料にありますとおり、きょうは7項目ほど議題がございます。この順番に沿って進行していきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

まず、平成26年度の来園者状況について、事務局からお願いいたします。

○事務局（木村経営管理課長） 今、議長から議事のお話があったのですが、本日、上田市市長がゾウの関係の記者発表を2時から行いました。その対応の関係で、大変恐縮ですが、飼育展示課の柴田が担当します6と7を先に進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

○金子議長 わかりました。

それでは、6からお願いいたします。

○事務局（柴田飼育展示課長） 資料6でございます。

主な新着動物でございます。

7月には、エゾモモンガ、レッサーパンダの雄が、そして、コツメカワウソが4匹生まれております。また、リスザル3頭が8月以降に繁殖しております。それから、10月にはシロテテナガザルの雌を導入いたしまして、今、雄とのペアリングが始まっております。

次に、主な転出、死亡でございます。

7月、10月、11月とエランドの子どもたちがそれぞれ成長いたしましたので、他の動物園での展示充実のため、転出しております。8月には、58年間飼育しておりました猛禽類のアンデスコンドルの雌が死亡いたしました。9月には、アメリカクロクマががんのため、安楽死させております。そのほか、ブラッザグェノン、クロザル、エランドの雌が死亡しております。

恐縮ですが、最後の行は間違いですので、削除をお願いいたします。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、この件で何かご質問等がありましたら、お願いいたします。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 続きまして、ゾウの導入について、お願いいたします。

○事務局(柴田飼育展示課長) 資料7でございます。

円山動物園のアジアゾウ導入についてご説明いたします。

平成19年にアジアゾウの花子が死亡して以降、ゾウの導入を期待する皆さんの声を受けまして、調査検討を進めてまいりました。最終的には、円山動物園では、種の保存や環境教育の推進を目的として、順調に行けば平成30年秋ぐらいのアジアゾウの導入を目指すことといたしました。

具体的な中身として、1のアジアゾウの導入です。

(1)の導入の意義についてです。

①として、陸上最大の動物のゾウを間近で見いただくことにより、市民とりわけ子どもたちに驚きと感動を伝える、②として、ゾウの展示、生息地に関するメッセージを伝え、環境問題や生物多様性の重要性について考えるきっかけを提供できる、③として、ゾウの繁殖に挑戦いたしまして、群れ飼育と繁殖についての先進的な動物園を目指したいということでございます。

(3)の導入頭数です。

雄が1頭、雌が2頭ないし3頭ということで、将来的に5、6頭の群れで生活できるような場所を確保したいと思っております。

(4)の展示方法です。

現在、熱帯動物館がございますけれども、アフリカゾーンに動物たちが引っ越しをした後は空になりますので、解体した跡地に整備する予定にしております。広さとしましては、屋内が2,000平方メートル程度、屋外が3,000平方メートル程度です。来年度に設計をスタートいたしまして、平成28年度、29年度の工事を予定しております。

一番下に絵がありますように、左側はプールなどを設けた屋外、そして、右側が屋内で、屋内にも砂を入れるという絵でございます。

次のページの②の飼育方法です。

旧来の家畜ゾウとは異なるゾウたちの群れですので、ゾウのストレスにならない飼育、

健康管理を行えるように、準間接飼育方法を採用します。これは、専用につくられた防護壁を設置いたしまして、飼育員や獣医師がゾウと同じエリアに入らないで健康ケアができる手法でございまして、近年、世界的に導入が進んでいるものでございます。

③の教育プログラムの作成です。

教育プログラムを充実していきたいと考えております。子どもたちへのプログラム、大学と連携したプログラム、一般の皆さんへの環境教育プログラムを作成し、充実を図りたいと思っております。

(5)の導入費用でございます。

先ほどの想定ゾウ舎に対しまして、建設費は約20億円、飼育にかかる餌代等の費用や光熱水費は年間約2,000万円かかる見込みでございます。

(6)の導入スケジュールです。

順調に行けば平成30年の夏の輸入、そして、秋にオープンができればいいと考えております。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、ゾウの導入について、何かご質問等はございますか。

○高山委員 教えていただきたいのですけれども、将来的に5頭から6頭になるのは非常に楽しみですけれども、円山動物園では、過去もゾウが多かったのでしょうか。

○事務局(柴田飼育展示課長) 2頭の雌を飼育していて、1頭に一時的にいてもらって、最大で3頭ということで、群れ飼育は初めてになります。

○高山委員 国内でも、5、6頭いるところは結構あるのですか。

○事務局(柴田飼育展示課長) たくさんはないですけれども、例えば、千葉県にある市原ぞうの国など、幾つかはございます。

○高山委員 もう一つは、費用についてです。

ゾウ舎の建築費が20億円ですね。前回お聞きしたとき、ゾウは買えないので借りるということでしたが、借りる費用はかかるのですか。

○事務局(柴田飼育展示課長) ゾウは購入いたしません。例えば、原産国との相談の中で、動物同士をいい形で交流させ、交換させていただくなどの方法で導入できないかなと考えてございます。

○高山委員 およそ1頭でどのくらいの借り賃がかかるかはわかりますか。

○事務局(柴田飼育展示課長) 輸送費、また、飼育をお願いしている期間の費用など、そういったものがかかってくるので、まだ算出できないところです。

○事務局(田中円山動物園長) 2年前でしょうか、J Cが導入しようとした動きがあったと思いますですけれども、あれは借り受けということで、1、2頭という計画にしていたと私も伺っております。

今回の場合は、借りるのではなくて、基本的には私どもにいただくことになるのですが、先ほど申し上げたように、交換動物をこちらから提供します。ですから、買うという行為

ではなくて、あくまでも友好関係での交換となります。

○金子議長 相手方の国がどこかを想定しているのですか。

○事務局（田中円山動物園長） 今、まさしく相手国とそういう交渉をしている微妙な時期でございます。申し上げられないのが残念ですけれども、できるだけ早い時期に公表できるよう、鋭意、進めているところでございます。

○金子議長 種類は、アジアゾウなのですね。

○事務局（田中円山動物園長） はい。

○小山委員 新しい飼育方法というのは、国内では先進事例が何件かあるのですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 全く新しい施設でスタートしているところはまだないのですけれども、東京の動物園では、その要素を取り入れ始めています。部分的に防護柵を改修したり、少しずつ広がっていく予定でございます。

○小山委員 個体ではなくて、群れで飼うというケースは、国内で結構あるのですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 何頭かを一緒に飼うというケースは、幾つかの動物園にあります。

○小山委員 それにしても、こういった飼育方法により、1、2頭ではなくて、もう少し多い群れで飼えるのは極めて画期的なことになりそうですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） そうですね。家族で暮らしてもらえるという点では、また新しい展示ができるかと思えますし、繁殖も進むのではないかと思います。

○矢橋委員 きのおうだったか、札幌版でしたが、道新でこの件が報じられていました。

全体的には割と好意的な話だったのですけれども、最後に東区か北区のカメラマンとかデザイナーから、こんなにお金をかけている時代であろうかみたいな妙なコメントを寄せていました。すごくモチベーションを下げるようで、何だかなとは思ったのですけれども、そういう抗議的な話はまだ出ていないのですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 今のところ、具体的な声として、動物園に寄せられている声の中にはまだありません。

○事務局（田中円山動物園長） 2年前に広報さっぽろを活用して市民アンケートを行いました。そのとき、前提条件としては、群れで飼うのですが、ここに書いてあるように、施設に20億円がかかって、ランニングコストに毎年2,000万円かかりますという前提を置いて、それでもゾウはいたほうがいいでしょうかというアンケートをとらせていただいたところ、48%の方がそれでもゾウがいたほうがいいというお答えでした。48%と、過半数ではないところが残念ですけれども、一方で、反対の声が26%ありました。

その理由としては、費用がかかり過ぎることが最大の懸案でございます。この辺につきましても、今後になりますけれども、何らかの方法で、例えばご寄附をいただくということで解決していけたらと思います。

○高井副議長 今の矢橋委員の質問に関連しますけれども、市民会議でも将来的に収支を健全化して入場者数と出費をトントンにするという目標があったと思います。年間で2、

000万円ふえることで観客動員数の目標値が変わるのでしょうか。

もう一つ知りたいのは、2,000万円の重みはよくわからないのですが、今の維持費として、飼育代、光熱費などは大体何%増しぐらいになるのでしょうか。

○事務局（田中円山動物園長） まず、入園者数の目標値についてです。ご承知のように、100万人を目指して計画を立ててやっております。しかし、その計画は平成28年度までなので、ゾウが入ってくる30年のときとは異なるのですけれども、今、100万人を目指して、去年は惜しくも96万人で、今年はマイナス11%と先ほど申し上げました。

ゾウが来れば2,000万円がかかりますけれども、お客様1名がどれくらいの入園料を払っていただいているかという、額面ではパスポートが1,000円、1回だと600円ですけれども、パスポートを買って何回も利用される方がいらっしゃるの、1人当たり250円強という平均値が出ています。10万人ふえると2,500万円というような粗い試算はできるかなと考えております。ですから、ほかの要素が全く同じだとしたときに、ゾウが入って、10万人ふえれば、そういうふうな収支関係にはなるという単純計算はできます。ただ、いろいろな要素がありますので、難しいかなと思いますけれども、目安としてはそんな感じです。

それから、全体的な経費の割合です。

収支均衡を目指しているところでは、支出が3億円、収入が入園料で2億円というのが現状です。支出の中には、光熱水費、餌代などが含まれておりますので、それが2,000万円のプラスになるというようなイメージを持っていただければと思います。

○事務局（木村経営管理課長） 餌は、寄附でいただくものもあるのですが、現在、経費として支出しているのが大体4,000万円でございます。2,000万円のプラスのうちの大体半分が恐らく餌代になりますので、かなりのウェイトを占めるのかなと思います。

また、高熱水費についてです。

園トータルでは、電気代や重油代で8,000万円ぐらいで、水道代が6,000万円ぐらいでした。

ですから、光熱水費のトータルは、1億数千万円になります。そういう面で言えば、増えるのは1割に行くか行かないかくらいだとは思っています。光熱水費でふえる分はそのぐらいかなということでございます。

○河原委員 順調にいけば、ゾウの導入は平成30年度となる見込みとあるのですけれども、順調に行って30年ですか。若干早くなることもあるのですか。

○事務局（田中円山動物園長） 先ほど申し上げましたとおり、設計と施設の建設に3年は間違いなく要するという見込みです。

○河原委員 楽しみだなと思いました。

先ほど、東京の動物園と出ていましたけれども、こちらは上野動物園ですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 上野動物園や多摩動物公園などです。

○河原委員 つい先々週、東京に行ったので、この会議が先にあつたら見てきたかったな

と思われました。

○金子議長 ありがとうございます。

ほかによろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、議題1に戻って、来園者状況について、よろしく願いいたします。

○事務局(木村経営管理課長) それでは、今年度の来園者の状況についてご説明をさせていただきます。

資料1のA4判横の資料をごらんいただきたいと思います。

前回は6月30日に会議を開いておりまして、ゴールデンウィークあたりまでの状況についてはご説明をさせていただいておりますので、6月以降の状況を中心にお話をさせていただきます。

まず、現状でございます。

表が二つありますが、左の月別合計入園者数比較の平成26年度です。10月までの入園者数は、67万9,534人です。この表は、年度全体の入園者数になっています。

次に、その横の右側の累積グラフと書いてある表がございます。こちらは、平成21年度から26年度までの入園者数が示されており、平成26年度は10月末現在の入園者数となっております。最終的に96万人近くの入園者があった平成25年度と比べまして、11%の減という状況となっております。

6月からの状況について、簡単にご説明させていただきます。

6月の入園者数が8万2,960人であり、平成25年度と比べると、率にして29%落ち込んでおります。これは年度を通した昨年度との比較の理由として出てくると思うのですが、アジアゾーンのオープンから期間がたって、その効果が薄れてきたということもあります。あるいは、ホッキョクグマの双子の転出も影響があると思います。また、もう半年近く前なので、そうだったかなと思われる方もいるかもしれませんが、6月は記録的な悪天候でございまして、明治以来の降雨の連続記録がありました。6月は、幼稚園や小学校の遠足が最も多い時期でございまして、団体の入園がキャンセルになったケースが、かなりございました。その結果、これだけの落ち込みになったと捉えております。

7月の入園者数は、7万9,250人でございます。前年度は9万8,000人以上入っております。この月も20%近い減です。7月も天候がなかなかよろしくなく、週末等で雨にたたられた関係があつて、出足がかなり落ち込みました。一方、7月末から、毎年恒例になっております夜の動物園を開催したのですけれども、おかげさまで大変好評でございました。夜の動物園だけを捉えれば、平成25年度よりも多くのお客様に来ていただいております。その結果、8月の入園者数は14万9,537人と、昨年度よりは2%ほど少ないのですけれども、かなり多くのお客様に来ていただいております。

9月の入園者数は10万6,375人であり、平成25年度と比べて11.5%の減と

なっております。8月はかなり挽回しましたので、その勢いでと期待して、また、秋の動物園のいろいろなイベント等も企画し、実施したのですけれども、11日に災害対策本部が設置されて避難勧告が出たことがありました。このほか、天候に恵まれない日が多くなりました。先ほどと同じく、9月も団体の入園が一番多い時期で、決められた日に雨が降り、キャンセルになってしまいまして、その結果、8月に取り戻した勢いをつなげることができませんでした。

10月の入園者数は6万9,560人で、前年度に比べて8.2%の減となり、トータルで大体11%の減という状況でございます。

前回の会議のときにもお話を申し上げましたけれども、5月が終わった時点でかなり厳しい状況でございましたので、先ほど今井局長からもご説明を申し上げたとおり、新しい取組や各団体に対しての働きかけ等を精力的に実施してきました。

幼稚園、保育園を通じて、子どもたちのさらなる利用拡大のための案内や営業を実施したり、あるいは、PTAや子ども会など、地域団体その他への働きかけも実施したりしております。

あわせて、こちらは秋号ですけれども、札幌市内の全ての小学生のご家庭に渡るように、学校を通じて動物園だよりを配付しております。冬号につきましては、札幌市の近郊の市町村、いわゆる札幌広域圏組合を構成している市町村の全小学校に、組合を通じて各教育委員会にお願いし、配付することのご了解を得ております。また、小樽市や苫小牧市などについても同様に配付する予定です。

このような取組を通じて、少しでも来園者につなげていきたいと考えております。

これまでの入園者数の状況についての報告は、以上でございます。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、入場者数につきまして、何かございますでしょうか。

○河原委員 10月の上旬はすごく寒かったと思うのです。だから、天候もかなり影響したのではないかと感じています。きょう来るときよりも寒い日が続いたように思います。

○高井副議長 二つあるのですが、一つは、ゾウ舎とも関係する施設評価の話です。

アジア館は、十数億円かけてつくりましたね。恐らく、市の行政評価の単位は動物園全体になっていて、市民ホールや札幌ドームと違って施設評価というメスは今まで入っていませんが、万一、方針が変わって、施設評価的な視点が入るとすると、アジア館を十何億円かけてつくって、一体どういう指標が達成できたのかというような成果指標を計算される可能性があると思うのです。

そういう施設評価の視点だと、今の段階で、ゾウ舎の目標として、市民の驚きと展示による教育と繁殖の三つを挙げていますけれども、これ全部を指標にしていくと、20億円かけて何人ふえたのか、20億円かけて何頭を繁殖できたのかということになり、では、1頭ふやすために幾らかかって、1頭繁殖するために幾らかかったのかというのが、恐らく、市民ホールや札幌ドームの施設評価を応用したときの話になると思うのです。

そうなると、アジア館の評価はかなり厳しく評価されて、ゾウ舎についても同じように厳しく評価されて、今後の増改築の許認可のときに大きく問題として出てくるような気がします。

ですから、質問の一つは、入場者数だけでは不利になるということだったら、ゾウ舎をつくるときに、指標的なものとして、展示や繁殖などの三つ以外に何かあるのだったら、ちゃんと示していかないと、いざ行政評価の方向が施設評価のときに、動物園が放漫会計ではないかと批判されてしまうと思うので、そこを聞きたいと思います。何か別の指標はないのでしょうかということです。

それから、2番目には、札幌市の動物園がこんなに頑張っているのに、入園者数が減ってしまっているのはなぜだろうということが疑問としてあるのです。全国のほかの動物園で動物離れが起きている、あるいは、少子高齢化などでメインとなるクライアントが高齢にシフトしているなど、そういう全国現ゾウがあるのでしょうか。その中で、成功しているといいますか、減らずに、増えていっている例は、他にあるのでしょうか。

今回みたいに、数年おきに20億円の建物を建てていくのは、多分、継続しにくいと思うので、そういう例をもし調査されていれば教えてください。

○事務局（木村経営管理課長） まず、最初のご指摘についてです。

前回、成果指標のところでもそういうご指摘をいただいたと思うのですが、動物園の新しい施設の効用、効果についての検証は、アジアゾーンができたのが平成24年12月ですけれども、その後もこれまで検証しておりません。

しかし、市内でもそういう効果の検証は求められている状況ではございますので、実際にどういう方法がよろしいのかもあるのですけれども、まずは、満足度や動物園のいろいろな施設としての効果みたいなものを年度内に測っていきたいと考えております。

それから、成功例についてです。

委員がおっしゃられたように、今、円山動物園のパターンが比較的そうですけれども、例えば、集客が期待できる動物が入ったり新しい施設ができたりしたときには上がります。そういうものがなくて、コンスタントに来園者を維持しているところはそれほど多くはないというふうには聞いております。ただ、入園者数の増減の状況は調べればすぐ出ますので、確認して、参考にしなければいけないと思っています。

各動物園でも、今、積極的に施設整備を進めている状況でございまして、それに伴って来園者数がふえるという状況はあるのですけれども、その後、1年なり2年たった後、そのままの勢いを保てるかということ、あまりそういうふうにはならず、これが終わったら新しいものというような展開をしているところは上がっていきます。しかし、そうしないでも、がっちり入園者をつかんで、成長していくというようなところについては調べていきたいと思っております。

旭山動物園については、昨年度までは入園者数が落ちていたのですけれども、新しい施設ができて、今のところ、来園者数が伸びております。

○高井副議長 私からの提案です。

例えば、アジアゾウの導入意義が資料7で三つ挙がっているのですが、成果指標みたいなもので考えると、1の(1)の①と②が、かぶった感じに見えるのです。①が展示で③が繁殖だと思うのですが、アジア館の成果指標として僕は入れてもいいのかなと思ったのは、環境局ということからなのか、展示、繁殖以外に環境実験をされていますね。雪の冷房設備やふん尿の堆肥化の実験をされていますね。②にも環境の話が入っていますが、動物園というのは環境をつくり出さないといけないところなので、環境実験としての設備なのだとすることを全面に出して指標の中に組み込むと、単に繁殖1頭当たりで幾らかかったのか、入場者1人当たりで幾らかかったのかとは別のお金にならない成果を得られるのではないかと思います。

そういうことをあらかじめ準備しておかないと、今後の増改築のときにボディブローのように効いてくるのではないかとというのが私の個人的な意見です。

○矢橋委員 夜の動物園についてです。

私も8月に2回ほど行きまして、園長にも園内でばったりお会いしました。

そのときに、割と暗くなってから帰ったのですが、窓口のところにはずらっとすごい長蛇の列ができていたのです。あれを見て、ものすごいものだな、こんな大成功したイベントはないなと思ったのですが、こうしてみると、それほど入っているわけでもなかったのですね。

9時に閉園ということで、これ以降に延ばすのは難しいですね。そこで、今年だったら、7月19日以前に前倒しするとか、8月30日以降も継続するとか、あるいは、毎週土曜日を週2日ぐらいに増やすということでかき集めるのは厳しいですか。

○事務局（田中円山動物園長） 閉園時間が5時ですが、入場が終わるのは4時半までで、それ以降の入場者を夜の動物園の入場者としてカウントしております。確かに夜の動物園の回数をふやすと、その分だけ1回当たりで5,000人とか6,000人で、去年までは4,000人ぐらいだったのですが、そういうお客さんがいらっしゃるから、確かにその効果は期待できていると思います。

ただ、いろいろな諸条件があり、主に動物のストレスがあります。飼育員によりますと、動物が次の日に眠そうだということも漏れ聞こえることがあります。ですから、単純に何回もふやすというのは難しいのかなと思います。

もう一点として、来年、アフリカゾーンがオープンします。オープンの時期は、今の予定では、夏と申し上げているのですが、8月の末になってしまう可能性も見えてきます。そこで、夜の動物園自体が7月の下旬から始まってしまうと、やっても、せっかくのアフリカゾーンを見ていただけないという事情も発生しそうです。ですから、来年に限っては開催時期をずらすことは検討しなければならないと思っています。

例年、時期的には7月末から8月末ぐらいが一番いいのかなと思う反面、9月のちょっと涼しくなった秋の夜長もいいなということもありますので、開催時期は研究させていた

だきたいと思います。

ただ、回数は、ちょっと難しいかなと思います。

○成田委員 今、夜の動物園の話がありましたが、8月23日に友達と来ようと思ったのですが、駐車場に入れなくて諦めたのです。すごくたくさんのお客さんが来ていることは聞いていたのですが、駐車場もあの状態だったのは、うかつでした。とてもではないけれども、入れる状態ではありませんでした。今、回数をふやしてほしいという話もありましたが、私は、来たときにゆっくり見られる状態になるようにお金を使ってほしいと思うのです。

例えば、来園者数がふえればふえるだけ、お昼を食べるところは少なくなるし、それは旭山動物園ですごく苦労したのです。この前、夜の動物園で駐車場に入れなくて諦めて帰らざるを得なかったということもあるので、単純に来場者で全てを計るのは怖いかなと思います。来た人が何も動物を見られなかったと言ってしまったら、それで終わりなので、そういうことも今後は考えていただけるとありがたいなと思います。

○事務局（田中円山動物園長） 先ほど入場券を買うのに行列ができてしまったということがありますが、我々に落ち度があったなと思っており、非常に反省すべき点だと思っています。

西門と正門がありますが、あのときは正門が非常に盛り上がったのです。それはなぜかというと、駐車場に入れないので、出直すか、どこかに置いて、駅から歩いていらっしゃって、正門に集中してしまったという状況です。ですから、西門にシフトするなりすれば、多少なりとも緩和できたかなというのが私の反省点でございました。

駐車場の問題ですが、これ以上ふやすのは物理的になかなか難しいのです。実は、第1駐車場、第2駐車場とありまして、第1駐車場は西門のところにあるのですが、第2駐車場は円山球場側にあって、150台分ぐらいありまして、今、そこを2層化ないし3層化しようと思っています。その工事が済めば、多少の緩和にはなるかなと思うのですが、それでも、恐らくあの行列をさばくだけのキャパにはならないと思います。一方、もっと駐車場をふやすと、多分、入ったお客様が何の動物も見られない状況になる可能性も高いと思います。

ですから、ご指摘のお客様が全て満足して帰っていただける、でも、たくさん来ても大丈夫というような体制は物理的に難しいかな、というのが正直なところです。ただ、それでも、お客様にご迷惑がかからないように、いろいろな工夫をさせていただきたいと思っています。

○成田委員 提案というか、今、思いついたのですが、夜の動物園がそんなに混雑するのであれば、チケットを先に販売しておくというやり方はどうでしょうか。数量を決めてしまって、4,000枚なら4,000枚をチケットぴあとかに出してしまうのです。そうしたら、その枚数だけになるので、それ以上はお客様が入らないと思います。また、入場時間を区切ってしまうのです。これはジブリ博物館とかでやっているのですが、

そういうふうにより方を工夫するのもあるかなと思います。

○事務局（田中円山動物園長） ご承知のように、単純に、朝の9時に600円払って入っていただければ、夜の9時までいられるというシステムですが、今おっしゃっているのは、別にするというのでしょうか。

○成田委員 昼間の人はその時間で一回終わりにして、仕切り直して、夜は夜で別ということですか。

○事務局（田中円山動物園長） プレミアム感を出してということですね。検討します。

○金子議長 僕もチケット販売については、もう少し工夫できると思っています。例えば、列の並び方や領収書の発行システムなどもそうで、今は手書きなのです。この間、初めて領収書をもったら、手書きですと言われたのです。学生の実習で来たものですから、そうすると、一生懸命書いてくれるわけです。そのうちにどんどん人が並んで来て、申しわけないなと思って、券売の人ではなくて、別な方にお問い合わせできませんかという感じで話をしたことがあります。

やはり、どんと来てしまうときの対応です。駐車場もそうですけれども、入場者についても、ある一定の数を超えてしまうと、非常に時間がかかってしまうような状況があると思うのです。100万人ということになると、いつものキャパより、かなり上のゾーンに入りますが、そうなったときに、動物園自体でハレーションが起こる部分が出てくるような気もするのです。その例が駐車場であり、券売のところかなと思います。

ですから、100万人を目指すと言ったときの95万人から上のゾーンに対する工夫があったほうがいいのか、考えなくてはいけないのかなという気はしますね。

○事務局（田中円山動物園長） 先ほどのお話にもありましたけれども、食事のスペースなどもそういう対ゾウになりますね。

これは春の会議のときに申し上げたかもしれませんが、例えば、業者にいろいろ入っていただき、用意していただくと、混んでいるときはいいのですけれども、閑散期の営業が難しくなってくるので、どうすればいいかは研究させていただきたいと思います。

○金子議長 券売で並ばなくてもいいような自動で発券できるようなところから券を買える仕組みはすごくいいのではないかと思います。また、駐車場も、この間の会議でも、球場の駐車場をうまく使うというようなお話も出ていましたし、数が多くなったときの工夫を考えていただければと思います。

○牧野委員 駐車場については話が出ているということですが、大体のめどは立っているのですか。

○事務局（木村経営管理課長） まず、球場側の駐車場は、当初、今年度中に工事したいと考えておりました。それで、予算は確保してあるのですけれども、建築に当たっているところクリアしなければいけない問題がございました。市内部の関係で大変申しわけないのですが、法規制などの確認が必要なものもあって、当初よりも遅くなる予定でございます。ただ、工事を実施することは間違いございません。

その実施時期については、大変申しわけないのですが、来年度になってしまうと思います。そのとき、いつから始めるかが問題となります。特に球場側の駐車場は高校野球の関係もあるものですから、実施時期については、これから関係のところと調整することになります。遅くなっているのは大変申しわけないのですが、平成27年度中には完成させたいと思っております。

あわせて、新しい第2駐車場については、かねてから、牧野委員をはじめ、ご指摘をいただいている精算方法を変えて、後払いにする予定です。それにあわせ、動物園横の第1駐車場についても機械を更新し、同じく後払いにしたいと思っております。ただ、こちらについては、財政当局と調整の必要があるのですけれども、そういう形で、抜本的な解決にはなかなかならないのですが、少しでも渋滞の緩和になるようにしたいと思っております。

あわせて、工事に入った場合については、駐車場が使えなくなりますので、代替の方法についてはきちんとしなければいけないと思っております。

○牧野委員 お聞きしたいのですけれども、幼稚園や小学校では、団体にバスで来る場合もありますね。あのときは、もちろん入場は無料で入っているわけですね。ということは、先ほどの収支均衡からいくと、いかにお金を払ってもらえる人に入ってもらうかがポイントになりますね。そうすると、土・日などです。

小学校や幼稚園では、大体、平日に入ってきていると聞いています。また、大学生など、修学旅行か、大型バスで入ってきていますね。それは平日に来られているので、非常にゆっくり見られていいだろうなと思うのですけれども、土曜日、日曜日にいかに集客するかが一番ポイントになると思います。また、お金を払ってもらうとなれば、子ども連れの親に来てもらうことが一番ベターだと思います。65歳以上は無料ですし、そういうところもどういうふうにして喚起させるかが大事ではないかと思えます。

それと、入場者数については、はっきり言って、今のところは1勝9敗ですね。秋・冬になると、前年もそうなのですが、ほかを見ても大体平均してきちんと入っていますね。冬ですから天候的にあまりよくないですね。そういったものを想定すると、秋から冬にかけての動員数です。春・夏もちろん天候には左右されますけれども、そればかりも言っていないのが実情だと思います。天候が悪いからしょうがないですというのはなかなか通用しませんので、天候が悪くてもいかに動員させるかです。

確かに、新しい施設により、雨にも雪にも当たらない施設がふえていますよね。それこそ、何年か前にはそんな施設もないわけですので、そういうものも加味していくと、夏場の落ち込みをもうちょっとと思えます。10万人といたら結構大きく、2カ月分かそのぐらいになりますから、そういうようなことをどういうふうクリアしていくか、いろいろと知恵を絞ってもらいたいと思えます。何がと言われたら、今はないのですけれども、みんなで知恵を絞ってやっていかなければならないなと思えます。

○中山委員 夜の動物園は、現状、平日、土・日・祝それぞれ平均で何人ぐらいで、動物

園としての上限は何人ぐらいと考えているのですか。

○事務局（池田調整担当係長） 夜の動物園の平均入場者数は、5,325人でした。

○中山委員 1日ですか。

○事務局（池田調整担当係長） はい。

○事務局（田中円山動物園長） 先ほど申し上げましたが、朝9時から基本的に動物園はあいていますけれども、入場自体は4時半で閉めるのです。そこまでが昼の入場者とカウントして、それ以降にカウントしたのが今申し上げた数字です。

○中山委員 5千何と言いました。

○事務局（池田調整担当係長） 9回開催して、9回の平均が5,325人です。一番少ないときが1,459人で、一番多いときが7,721人です。

○中山委員 動物園的には、7,700人のときもまだ行けるぞとなったのですか。

○事務局（田中円山動物園長） 先ほどのように、券売の行列ができてしまいました。

○中山委員 ちょっと文句が出てしまうかなぐらいだったのですか。

○事務局（池田調整担当係長） ゴールデンウィークのマックスのときで2万人を超えた日があります。ですから、キャパ的には、2万人を考えると、まだいけます。

○中山委員 夜に来るということですから、多分、みんなが大人ですよ。みんながお金を払っていると思うので、いいお客さんですね。

○牧野委員 子どもも相当いますよ。

○中山委員 でも、夜に来るということは大人がくっついてきますよね。ここに何かお金の仕組みをつくりたいところですね。チケット代を上げたらだめなのですか。

○牧野委員 でも、動物にもストレスをあまり与えたくないですね。

○高山委員 入園者数のレベル感です。

例えば、私はテレビ塔を経営していますけれども、動物園は市民の方が多くて、我々のところは観光客が多いのですが、テレビ塔でも大体10%割れです。各観光施設でも、今年度は非常に苦勞しております、特に土・日の稼ぎどきに天気が悪いということがありました。今一番いいのは、青少年科学館です。リニューアルして、すごい数の人が来ます。しかし、JRタワーにしてもロープウェイにしても、他社なので数字は言えませんけれども、非常に苦勞している状況です。ですから、ホッキョクグマがいなくなった中で11%というのは、まだ頑張っているほうかなというふうに考えてもいいのかなとは思いますが。

○金子議長 全体的に、ほかの動物園や道内の動物園でも減っているのですか。旭山動物園については、先ほど、今年の話がありましたね。

○事務局（田中円山動物園長） データがちょっと古くて、園館長同士の話だったのですが、けれども、例えば、夏ごろに小樽水族館の方と話した中では、どうしたかな、厳しいなどという声は出ていました。ただ、旭山動物園では、もうちょっとありますね。

○金子議長 外国人の入場者のカウントは何かあるのですか。

○事務局（田中円山動物園長） 定例的にとったものはありませんね。

○金子議長 最近、まちを歩いている、日本語以外の言葉を聞くことが大分多いのです。

○事務局（池田調整担当係長） 台湾の旅行客が多いのです。繁体字版のリーフレットを1万部刷っているのですけれども、昨年度は1万部はけて、増刷したぐらいですので、それ以上の方が入っていらっしゃると思います。

また、アンケート調査の結果では、道外からいらっしゃる方の割合が約7%です。

○河原委員 やはり、消費税率が上がったことも関係しているのかなと考えています。

今、旭山動物園の名前が出ましたけれども、来年の北海道版の年賀状が旭山動物園のペンギンになっていますよね。それで入園者数に影響が出るのかな、円山動物園は大丈夫かなと思いました。きょう、来る前に郵便局に寄ってきたら、目について、そんなことを考えてしまいました。年賀状になったときにどういう影響があるのか、他の動物園のことですけれども、聞いてみたいなと思いました。

○矢橋委員 今、道外から7%という話でしたね。以前に全日空とタイアップしてPR活動をしましたが、7%というのは前よりも上がっているのですか。

○事務局（池田調整担当係長） 5%から7%に上がっています。

○矢橋委員 2%も上がっているのですね。では、効果があったということですね。

○小山委員 S A P I C Aは何年前から使えるようになったのですか。

○事務局（田中円山動物園長） S A P I C Aそのものですか。

○小山委員 はい。数年前から使えますよね。あれの利用度はどうなのでしょう。S A P I C Aを使って入園料を払ってくれる方です。

○事務局（木村経営管理課長） データは持っております。

○小山委員 結構ふえていますか。

○事務局（木村経営管理課長） 感触としてはふえていると思います。

○小山委員 園では、まだチャージはできないのですか。

○事務局（木村経営管理課長） ここでやるのでしたら、チャージ機を整備しなければいけないですね。

○小山委員 足りなかったら、使えないのですね。あそこの窓口でチャージはできないのですか。例えば、ウィズユーカードがなくなって、S A P I C Aの普及率が上がるから、できれば窓口でもチャージできるようにすると。技術的に難しいのかなという疑問がありますので、そこら辺を知りたいです。

○事務局（田中円山動物園長） 運用しているのが交通局なので、お金のやりとりがなかなか難しいです。チャージすると、こちらに現金が残りますね。その精算の問題が発生すると思うのです。

今は、電子的に幾ら払ったというのを交通局がもらうだけなのです。しかし、こちらでチャージすると、現金が交通局に行かなければいけないのかなと思います。ですから、チャージみたいなことができなくて、多分、各店舗もそういう状態なのかなと思います。

○小山委員 モバイルのチャージ機が全館にできればいいのですね。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、次の議題に移ってよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○金子議長 続きまして、平成26年度夏・秋のイベント事業についてお願いします。

○事務局(木村経営管理課長) 1枚めくっていただきまして、資料2でございます。

平成26年度夏・秋のイベント事業ということで、10月までに実施したイベントについてでございます。

来園者数は、先ほどご説明を申し上げましたので、割愛させていただきます。

次に、実施したイベントの状況でございます。

「壁面アート展」を夏休みの期間から現在まで実施しています。もともとは国際芸術祭の連携事業として行ったものでございますけれども、せっかくなので、今も展示しております。動物の写真等は、お客様には結構好評でございます。

「夜の動物園」については、先ほどから話題になっておりますけれども、7月、8月で9回行いました。昨年度もそうでしたけれども、それぞれテーマを決めて、そのテーマに沿った取組を行いました。

「NTT東日本体験広場」は、NTT東日本とタイアップをして、冬休み期間、子ども向けに実施したものでございます。

「わくわく蟲ランド」という夏休みの特別展でございますが、昨年も実施しておりますけれども、今年のテーマは「食虫」で、虫を食らうというコンセプトで実施しました。皆さんに無理して虫を食べていただくというはしていませんが、試食のコーナーをつくりました。このように、ちょっと変わった角度から虫について考えて、感じていただくものです。

○事務局(田中円山動物園長) 売っているイナゴの佃煮などですので、その辺の虫をとっているわけではありません。

○事務局(木村経営管理課長) この分野は好き嫌いがはっきりしているのですけれども、実施した園側としては、昨年に引き続き好評だったなという認識です。

裏のページになりますけれども、「移動式遊園地」を夏休みのお盆の前後に設置してもらいまして、お子さんたちに利用してもらいました。

それから、秋のプログラムですけれども、「円山スネークアート展」です。爬虫類や両生類をモチーフにした写真や工芸作品その他の展示を行っており、昨年も実施しています。

次に、「秋まつり」でして、9月の3連休に実施をしたものでございます。敬老の日の前後、長寿動物に特別な餌を与えたり、本市の農政部と連携いたしまして、野菜の販売なども行いました。また、連休中日の9月14日には、「秋の夜の動物園」を実施しております。昨年度も秋に1回開催しておりまして、引き続きのものです。

「サイエンZOO」というのは、大学や青少年科学館、中学校等の科学部などに出展し

てもらい、いろいろなサイエンスショーを園内で実施いたしました。これも昨年に実施しております。

「くまモン隊がやってくる」につきましては、局長からご紹介を申し上げたものでございまして、子どもたちには大変好評でございました。

連休後の5月、6月に「肉食デー」、「草食デー」を実施したのですけれども、それに関連して、「雑食デー」を実施して、動物も植物も食べる動物たちに焦点を当てたプログラムを組んでおります。

今月になってのイベントですけれども、ちょうどサケシーズンも終わってききましたので、ヒグマやオオカミなどにサケを与えたり、アザラシに活魚を与えるなどのイベントを11月の初めに行いました。

それから、広報活動でございましてけれども、先ほどご紹介した動物園だよりの夏号、秋号を札幌市内の小学校等に計18万部配付しております。また、チラシの作成、新聞やテレビ報道による広報を行うとともに、資料の、地下鉄の“隔駅”というのは、それぞれの駅という漢字の誤りでございまして、“各駅”の構内にポスターを掲出するなどしております。

最後に、前回の会議でもご紹介したと思うのですが、高校生以上の学生の集客対策として、今年の3月に学生無料を1回やったのですけれども、7月、8月の期間中、年間パスポートを学生向けに半額で販売してみました。その結果、この期間の年間パスポートの購入者が大体2万人だったのですが、そのうちの23%に当たる4,802人が学生でした。

入場者数自体は去年のほうが多かったのですが、年間パスポートの購入者数を比較すると、この人数分が新たにパスポートを買ってくれたと評価できるような数字でございました。パスポートの全体の購入者数の比較等から、そういうふうな状況でございましたので、学生を取り込む集客対策としては効果があったというふうに考えております。

これから1年間有効ですので、足しげく運んでいただきたいと期待しているところでございまして、今後、さらなる年代対ゾウのプログラムをこれから考えていきたいと思っております。

資料2の説明は、以上でございます。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、夏・秋のイベントにつきまして何かありますか。

○矢橋委員 私は時間がないので、3点ほどまとめていたします。

まず、イベント実施状況についての札幌国際芸術祭連携事業でございます。

私は、きのうの中小企業振興審議会でもお話を申し上げたことで、検証活動はこれからでしょうけれども、事業としていかなるものかという不備が、市民の目からも終わってから非常に目立つわけです。

それはそれとして、動物園としての連携した効果があったのか、来客数がこれによってふえることをそんなに期待していないと思っておりますけれども、もし機会があれば検証いただ

きたいと思っています。前回の会議では、ラッピングバスで400万円ぐらいというお話しいただきましたね。そこまでかけてきれいなものをつくって、確かに喜んでいただいたことはわかりますけれども、費用対効果として、そこまでしたほうがよかったのかどうかは、今後、考えたほうがいいのかと思います。

どちらかといえば、私の周辺ではスネークアート展の評判が非常によく、出品したい、あるいは、見に行きたいという人が非常に多かったのです。草の根レベルでは、意外に評判のいい企画でございますので、ご検討をいただきたいと思います。

もう1点、イベントとして、この中に出てこなかったのですが、10月26日にオオカミ舎でお茶会を催しました。これには私がかかわっておりまして、私も当日は茶を運んでおりました。

準備段階で、お茶ですから、お湯を沸かさなければいけません。沸かすに当たって電源を使っておりましたが、すぐ落ちてしまうのです。職員の方にすぐに飛んで来ていただいて直してもらったのですが、やっぱり落ちるのです。これから湯沸かし器は使わないようにしようとか、いろいろと参加者は、てんてこ舞いでした。

2回目ですけれども、そんな不慣れな状況ですので、サポートしてもらえるようなものがあれば、もう少し利用度が上がるかなと思います。これは、利用度を上げるとすればです。しかし、案外、あれも評判がよくて、体験お茶コーナーということで、子どもたちにお茶を立ててもらおうというところの整理券を100枚用意したら、1時間でさばけてしまうくらいに非常に評判がよくて、これも使っただけたらと思っています。

3点目は、きょう、この後、退席させていただきますが、先ほど局長からお話をいただいたミュンヘン・クリスマス市が4時から開幕します。当社も少なからずご支援を申し上げている関係上、大通2丁目まで行ってまいります。しかし、お手伝いしてほしいと言ってきたのは、国際プラザです。

国際プラザは別のほうでかかっているの由来なのでしょうけれども、一生懸命です。札幌市の部局ではないのに、あんなに一生懸命よくやってくれるものだなというぐらいです。ですから、動物園もああいう外郭部隊というか、何か知らないけれども、動物園のために一生懸命やってくれている人たちがいれば非常に助かるのではないかと思います。

○金子議長 そのほかによろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 また何かありましたら、最後をお願いしたいと思います。

では、続きまして、冬のイベント事業についてお願いいたします。

○事務局(木村経営管理課長) 先ほどもお話がありましたように、どうしても冬場はお客様の入りも落ちてしまいがちでございますけれども、今年度もいろいろなイベントを実施するなどして、少しでも足を向けていただければと考えております。

時期的に大きく三つに分けてありますけれども、クリスマス関連のイベントとして、これらのものを予定しておりますが、基本的には昨年と同様でございます。

お正月の関連イベントとして、正月三が日の入園料無料はここしばらく続けているものでございます。あわせて、今年度は羊年ですけれども、干支にちなんだ縁起物も配付したいと思っております。また、羊に関するパネル展など、特別展を1月いっぱい行いたいと思っております。ぜひ、小学校の自由研究でも使ってもらいたいと思います。

それから、スノーフェスティバルは、雪まつり期間中でございます。今年度も、昨年、一昨年と同様、無料で行いたいと思います。アフリカゾーンの工事が進んでおりまして、場所が狭くなってきているのですが、氷の滑り台については、子どもたちが大変楽しみにしていますので、今年度も用意したいと思っております。また、恒例の夜間鯨開園も期間中に1日予定しております。

広報活動については、こちらのとおりです。

先ほどもお話ししましたけれども、近隣の市町村も含めて広報の強化に努めたいと思っております。

○事務局（池田調整担当係長） 今年、冬に新しい試みとして冬の企画展を予定しております。

深海生物展ということで、深海生物と陸上動物のかかわりというテーマで、進化の過程で、海にいたときから引き継いでいる共通点、あるいは、全く異なってしまったところなどをパネル展でご紹介するとともに、標本と生き物の展示をしようと思っています。

今、かなり話題になっていますダイオウイカが新潟の海洋水産研究所で冷凍保存されているのですが、4メートル級のものをこちらに運んできて、1月1日から31日まで展示する予定です。

このほか、ダイオウグソクムシ、それから、オウムガイの生体を水槽で展示します。また、深海魚の標本を北大の水産学部からお借りして、30点ほど展示する予定です。

○事務局（木村経営管理課長） これは、1月いっぱいですね。ちょっと変わった角度からプログラムを考えた次第でございます。

冬のイベント関係の報告は、以上でございます。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、冬のイベントに関してはいかがでしょうか。

○矢橋委員 昨年の今ごろ、この会議の場で蹄鉄を順繰り回してもらって、これを配るのですよとありましたね。私は結局もらえなかったのですが、私の周辺でもらった人がいました。これは非常に評判がよくて、傷がいいとか、マニアックな話をする人たちがいます。羊には蹄鉄はありませんが、ああいうものの羊版があればいいなと思っています。

この場で、こういうものも去年配られたのですね。これは縁起物だと思って、持ち歩いているのですが、こういうものを配っているのだよと見せると、こういうものをもらえるのだったら1月は行こうかなという話になります。きょうももらえるのかなと思っていたら、もらえないので、このまま持ち帰ります。

○事務局（田中円山動物園長） 鋭意、準備中でございます。

○河原委員 私も、きょうは見られるのかなと思って、楽しみにしていました。蹄鉄はすごくといいと宣伝していたのです。しかし、宣伝する必要もなくわかったらしくて、それを目当てに並んだらしいです。

○金子議長 あれをもらうだけに来て、そのまま帰る人がいるとかね。

○成田委員 あれは中に入らないともらえないのです。

○金子議長 だから、一応、カウントはされるのですね。

○成田委員 カウントはされるのだけれども、すぐ帰ってしまうのです。

でも、蹄鉄はよかったです。私は、並びました。

○金子議長 あれは、お値段が結構するのですか。

○事務局（田中円山動物園長） J R Aから寄贈いただきました。1, 0 0 0個掛ける3日間です。

○事務局（木村経営管理課長） 札幌競馬場が閉鎖になっていて、今年にオープンするという宣伝を兼ねたものだったので、無料で提供していただきました。

○金子議長 別に午年だからということではなくても、ああいう人気のあるものは、時折、イベントとして良いのでは。タダでいただけるのならば。

○成田委員 雪の中、2、3時間並びます。

私は、1日に2時間ちょっと前ぐらいに着きましたが、本当にぎりぎりだったのです。それでもらえなかったら、翌日にもっと早く来ようと思っていたのです。もう並んでも無理かなと後ろのほうは、ざわざわしていました。あれはすごかったです。

今年に何を配るのかはまだ決まっていないのですか。

○事務局（池田調整担当係長） 羊年ですので、動物園で飼育している羊の毛を刈ったものを加工して、キーホルダーを製作する予定です。今、毛を洗ったりしている最中ですので、もうしばらくお待ちください。

○成田委員 楽しみに待っています。

○矢橋委員 また、クリスマス関連イベントで男女のカップル20組招待の話です。私は応募ができないということで、非常に残念な企画だと思っています。

個人的な話で恐縮ですけれども、婚活パーティーを以前からやってほしいという話を会議のたびにさりげなく忍び込ませていたのですけれども、9月か10月にやったのですね。

私はちょうどその日に所用がございまして、出られなかったものですから、知人に話したら、その知人が行きました。非常に楽しかったということです。そして、参加者のうち、2組か3組がカップルになったやにも聞いております。これこそ、費用対効果ではないですけれども、効果があったと思います。次回は私も呼んでいただければと思います。インサイダー取引ではないですけれども、先に情報をいただければ、その日はあけておきますので、ぜひともよろしく願います。

○事務局（田中円山動物園長） 今は、恋人たちのクリスマスナイトZOOは無料招待と書いてありますが、年間パスポートをお持ちの男女の方を対ゾウにしています。パスポー

トの販売促進と、今回、これをきっかけにさらにお2人で来ていただきたいということで企画したものでございます。

○八木委員 私のほうからの意見を述べさせていただきますと、今回、初めての参加ですので、これまでに議論がされていたら申しわけないのですが、春・秋に比べて冬の落ち込みがあるにしては、冬のイベントの内容が少々地味かなと思いました。

夏の非常にいい時期にどんどん来場者を増やしても、先ほどの駐車場による行列の問題が出てきますので、むしろ冬の弱い時期こそ人数を上げたほうがトータルの数を上げるためには有効なのではないでしょうか。

現在、北海道の観光審議会の審議委員をさせていただいておりますが、札幌のみならず北海道全体で冬の観光客の大きな落ち込みはどこも一緒です。札幌市民の方の多くは、雪が降ると出不精になるというか、なかなか足を運ばなくなるので、冬のイベントの強化は他の時期よりも必要だと感じます。

冬にわざわざ足を運ばれるのは道外の方で、また、先ほどお話にも出ましたけれども、海外の方だと思います。台湾の方向けの繁体字のリーフレットもあるということだったのですけれども、この2年ほどでタイの方々も非常に増えていらっしゃいます。だからといって、タイ人のために別に印刷物をつくるということではなくて、旅行関係のいろいろなところと話をし、外国人の観光ルートの中に動物園を入れていただくということも、もう少し積極的にされたほうがいいのではないかと思います。

冬のイベントについて思ったことは、以上です。

次に、先ほどゾウの話をお聞きしましたが、ゾウは餌代が非常にかかるのではと思いました。ですからお金を払って、餌を買うだけではなくて、例えば札幌市の農政部に働きかけて、農家で捨てる野菜をもらえるような関係をつくれませんか。先日、「北海道生活」の取材で道南の養豚業者を取材したのですが、農家の方が要らない野菜を使ってくれたほうがありがたいということで、種芋などの間引きした野菜を持ってきてくれるというような例を聞きましたので、お金を使わなくても餌がまかなえる方法を考えてみてはどうかと思いました。

私は個人的にゾウがとても大好きで、それこそ、タイまで何度もゾウを見に行ったり乗りに行ったりしました。ゾウの施設は人気がありまして、チェンマイではゾウ使いもいます。この動物園でゾウの曲芸をやらせるのかはまた別の問題だと思いますけれども、たとえば有名な絵を描くゾウのように、ゾウをただ展示するだけではなく、飼育をしている段階でゾウと触れ合えるような、来場者が喜べるようなものがないのでしょうか。ペンギンの行進もあるのだったら、ゾウの行進があってもいいのではないかと極端なアイデアも思いつきましたが、展示するだけではない、動物を身近に感じるおもしろいものがあれば、ただ新しい動物を入れるだけではなくて、リピーターが何度も来たくなるようなきっかけになると思います。

さらに、大人向けのイベントもふやしていただければ、冬のマイナス時期のかなり有効

な手だてになると思いますので、冬向けの手だて、大人向けの手だて、そして、リピーターへの手だてを考えるべきではないかと思いました。

○事務局（田中円山動物園長） 今、幾つかご意見をいただいたのですけれども、まず、餌の問題です。

残念ながら、豚などと違いまして、捨てる野菜は餌として適さないもので、それは無理なのです。捨てるものをいただくのではなくて、ご寄附をいただくという形で、大変申しわけないのですけれども、購入されたものでやらせていただいています。そのため、今もたくさんのご寄附をいただいている現状です。

ゾウの飼育には、ランニングコストで2,000万円、イニシャルコストで20億円という試算があります。そういう意味では、建設費もそうですし、日々の餌代としてご寄附をいただくというような動きをどんどん加速していきたいと思っております。

それから、動物との触れ合いです。

動物園によっては動物と触れ合えるところがたくさんあって、円山動物園ではモルモットとの触れ合いを限定でやっているだけです。というのは、我々は、動物にさわっていただくのではなくて、生き生きと暮らしている姿を見ていただくということに重点を置いておりますので、あえて触れ合いを前面に押し出していないのです。ですから、恐らく、これからゾウを飼育しても、今おっしゃったような曲芸などは一切やらせない予定でございます。

残念ながら、ゾウに乗れたり、さわれたりすると、お客さんにたくさん来ていただけるかなと思うのですけれども、動物園の方針としては、動物の生き生きとした姿を見ていただくということに重点を置いていますので、残念ながらできないかなと思っております。

それから、冬のイベントについては、おっしゃるとおりでございますので、寒い中に来ていただくためにいろいろ工夫をしたいと思えます。

旅行関係については、別の者からお答えします。

○事務局（池田調整担当係長） 私は、今月に台北で行われた台北国際旅行博に参加させていただきました。北海道観光振興機構にサポートしていただきながら、現地の旅行会社と直接話をしてきましたが、話をして見えてきていることがあります。

まず、円山動物園が今までなぜツアーのコースに入っていなかったかについてです。道南エリアを周遊するパターンでは、必ず札幌には来るのですけれども、小樽に行って、チョコレートファクトリーに行ってというパターンで、3時にはその人たちが買い物できる時間をつくらなければいけないということがあるそうです。そして、夜になると、薄野でカニを食べるのが定番のコースです。台湾の方は定番を好む方が割と多くて、動物園で1時間、2時間滞在するというパターンがなかなか組めていなかったのがこれまでの事情だというふうに聞いてまいりました。

そこで、どうやったら円山動物園がコースに入っていけるのかを聞きました。要は、もっと有名になることだ、とのこと。また、旭山動物園のようなシンボリックなアトラ

クションなどができればというお話もいただきました。

これからは、いろいろと獣舎が整備されてきますし、そういったものができ上がってくればそういうこともできるかと思えます。まずは、個人旅行者もたくさんふえてきていますので、そういう人たちにまずは円山動物園の存在を知っていただくことがファーストステップかと思いました。

そこで、現地で台北市民の方に繁体字でつくったリーフレットを1,000部ほど直接配付してきました。ただ、これだけでは足りないので、提携関係がある台北動物園に私どもの動物園のリーフレットを配付していただきます。

さらには、旅行会社と今回は直接話をしてきました。日本語ができる方がいらっしゃいますので、イベントの企画ができ上がった都度、その人たちにメールで情報を流して、現地の旅行会社とウェブサイトなどでそういう情報を活用していただくなどで、少しずつそういうお客さんをふやしていきたいと思っています。

○八木委員 ありがとうございます。先ほどは私の知識不足で申しわけなかったのですが、飼育員とご相談して、冬の動物の元気な姿をアピールしていただきたいと思えます。台湾もタイも南国なので、この国の方々の、冬や北海道に対する憧れは非常に強いのです。南国もしくは道外の方など、わざわざ来てくださるお客さんが喜ぶような仕掛けをつくっていただければと思えます。

○河原委員 私もタイに行ったときに、ゾウには乗らなかったのですが、見てきました。途上国ではゾウがこんなにたくさんいるのに、先進国の自国は...と複雑な気持ちになりました。

今、来る前に北海道神宮に寄ってきました。以前から気がついていましたけれども、東南アジアの言葉をお話しされる方がふえたなと思えました。ただ、今まで気がつかないただけかもしれませんけれども、びっくりしたことに、本堂に近い鳥居のところに、日本語はもちろん、英語、中国語、韓国語のパンフレットがありました。それは札幌市の神社に限らずありますけれども、もっと驚いたのはお守りのパンフレットもその言葉のものがあるので、北海道神宮は頑張っているのだなと思えました。もちろん観光のコースに入っているのだと思いますが、ちょっと驚きでした。観光でお守りを買っていただければ、収益も上がりますから、神社でもそのような時代になったのだなと思えました。ですから、動物園もと思えます。

○高山委員 道外の神社では、おみくじも多国語のものがあります。

○河原委員 A4判ぐらいのサイズにお守りが全部載ってしまっていて、各国の言葉になっていてすごいなと思えました。

○成田委員 深海生物展は、1月1日には全部見られるのですか。

○事務局（池田調整担当係長） はい。

○成田委員 1月いっぱいですね。

○事務局（池田調整担当係長） はい。

○成田委員 わかりました。ありがとうございます。

○金子議長 それでは、次の4の円山動物園運営への支援についてお願いいたします。

○事務局（木村経営管理課長） 資料4でございます。

これにつきましては、前回の会議でご案内を申し上げたものでございます。

当初、年度の途中から移行を考えたところでございますけれども、今年度は現行のアニマルファミリー制度を続けることにしております。来年4月をめどに、3の①から⑤まで書いてありますけれども、このような方向で進めるべく、現在、準備をしております。

資料4は、アニマルファミリー制度から新しいサポーター制度への移行についてのごとでございますけれども、前回に引き続き、資料で説明をさせていただきました。

○金子議長 内容的には前回と同じということですね。

これらにつきまして、何かございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 では、このように進めていただきたいと思います。

それでは、最後になりますが、会議規則についてです。

○事務局（木村経営管理課長） 円山動物園の市民動物園会議は、円山動物園の基本構想が平成19年にできて、その後、段々の経緯を経てできました。

この会議の位置づけとしては、平たく言うと、これまでは懇談会みたいなものでございました。もちろん、目的としては、市民の意見を動物園の運営に反映させるため、学識経験者や各界の代表の方、あるいは、市民代表の方に入っていて、組織されているものです。しかし、法令、条例で規定されている組織ではありません。

札幌市にはそのような組織がたくさんありまして、市の内部では法律や条例で規定されている会議のことを附属機関と言うのですけれども、それに似ているものを類似機関としてくくっていました。

しかし、昨今のいろいろな状況から、こういう組織については条例や規則で位置づけを定めておくべきだということがございました。そこで、動物園会議をはじめとして、似たような条例や法律で規定されていない会議や委員会について、きちんと条例で規定することになりました。

ここには規則の制定とあるのですけれども、先月に閉会しました市議会で札幌市附属機関設置条例が制定されまして、それに基づき、動物園会議も条例に基づいた機関として位置づけられました。

資料5を1枚めくっていただくと、札幌市附属機関設置条例の資料があります。

1枚めくっていただき、3ページ目に抜粋 別表1として市民動物園会議があります。所掌事務は円山動物園の運営方針についての審議に関する事、定数は10人以内、任期は2年でして、これまでの会議と全く同じですけれども、それを条例で規定いたしました。

あわせて、条例で定める機関になりましたので、その会議に関する規則を定めておりますが、この内容につきましては、今まで行っておりました会議の要領と全く同じものでご

ざいまして、それを規則として制定したということでございます。皆様方の会議における審議内容その他については全く変わらないのですけれども、条例できちんと位置づけをしたということでございます。

細かい話をしますと、条例で規定されたので、これまでは皆様方にお支払いしていた報酬について、今までは講師の謝礼と同じような位置づけでしたが、条例規定の機関の委員となりましたので、法律上の扱いとして、特別職の地方公務員としての報酬となります。ただ、税金を引くことなどは今と全く変わりません。法律上の位置づけが若干変わったところはあるのですけれども、これによって変わったり義務がふえたりすることは一切ございません。札幌市では審議会みたいなものが多いものですから、それをきちんと一度整理して、必要なものは条例できちんと規定しようという趣旨でこのように条例及び規則を制定いたしました。

後先になった部分については大変申しわけないのですけれども、ご理解をいただければというふうに思っております。

以上、規則制定についてのご説明でございました。

○金子議長 ありがとうございます。

この件につきまして、何かございますでしょうか。

委員の名簿は、今まではどういう扱いになっていましたか。

○事務局（木村経営管理課長） 今までも会議の名簿については公表することが原則になっておりましたので、ホームページ等に載せております。

○金子議長 動物園のページに載っているのですでしたか。

○事務局（木村経営管理課長） はい。動物園のページのほかに類似機関のページがありまして、そこに行けば出るようになっていたはずです。

もともと法令等で設置している機関、例えば、社会教育法で規定されている社会教育委員会会議はそちらの位置づけだったのですけれども、基本的にはそれと同じ扱いになったということでございます。

○金子議長 この会議名簿は、こういうような形で載っているのですか。

○事務局（木村経営管理課長） たしか、そうだと思います。

○金子議長 わかりました。

ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 それでは、予定しておりました議題はこれで終了となります。

○小山委員 その他でよろしいでしょうか。

今、遊園地が動物園になくなってアジアゾーンとアフリカゾーンへ、そして、熱帯動物館がゾウ舎にかわって、今は非常に過渡期で、大変革の時期だと思っておりますが、それに伴っているいろいろ工事が入っているので、園内の植栽等も大分変化していると思っております。

動物園での植物の生態はどういうふうにするのかについては指針があると思うのですけ

れども、そういうものをどういうふうにかえられているのか、植栽等の整備をどういうふうにかえられているのかということがありましたら、教えていただきたいと思います。

○事務局（田中円山動物園長） 園内の樹木の方針ですね。

○小山委員 動物園として、環境については、ある意味、シンボリックな整備計画があるのではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○事務局（木村経営管理課長） 動物園としての独自の植栽や樹木の管理計画みたいなものは持っていないのですが、動物園の樹木の管理や植栽等については、札幌市の公園の規定や方針をそのまま用いております。ですから、例えば老朽化した樹木の伐採についての考え方や新たに樹木を植える場合には、それをもとにして行っております。

また、一般の方には限定的にしか開放できていないのですけれども、動物園の森という円山側の部分については、基本的にはそのままの形で残すことで対応しております。

○小山委員 なぜそういう話をお聞きしたかということ、ホノルルの動物園なんかでは、ハワイの植物を中に埋め込んで、動物園というゾーンをつくってしまうということがありますね。そういったものは、例えば、北海道でいろいろな世界の動物を飼う中で、どういうふうな考え方で植物生態や動物園環境を考えたらいいのかみたいなことをこの前、ふと思ったものですから、今、お聞きした次第です。

○事務局（田中円山動物園長） 動物園の森では、北海道固有のというか、古くからある植物に戻そうとしております。外来種がどんどんふえているので、そういうものは排除して、本当の原生の北海道の森を再現しようと試みています。

今おっしゃられたホノルル動物園のこととはちょっと違うかもしれませんが、そういった円山独自の取組にはそんな感じのものがあるかと思えます。

○小山委員 動物舎だけではなくて、全体の植生も含めて、円山動物園がよりアピールできればいいなというふうな気持ちでおります。

○牧野委員 前回のときにお話しした「まるっば」についてです。夏場はものすごく子どもたちに人気がありまして、前回は冬場のことをお話ししたと思うのですけれども、やっぱり冬は使えませんか。

○事務局（木村経営管理課長） ちょうどこの月曜日から使用できなくなりました。

○牧野委員 工事の関係ですか。

○事務局（木村経営管理課長） 冬囲いのためです。まだ雪は積もっていないのですけれども、積雪による事故防止という観点で、昨年もそうしたのですけれども、今年も同様な対応をとった次第でございます。

○牧野委員 しかし、雪ですから危険性はないですね。

子どもたちには、動物を見るよりそこで遊んでいるほうがいいという子がかなりいますから、冬場の活用方法をとります。あそこであれば子どもたちも安心して遊べるという親御さんがいれば、子どもたちの運動不足も解消できるのではないかと思いますので、今後の検討課題としていただければと思います。よろしくお願ひします。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、ほかによろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、お返しします。

3. 閉 会

○事務局（田中円山動物園長） 長時間にわたりまして、熱心なご議論、どうもありがとうございます。

きょういろいろなご意見をいただきましたので、これから事務局といたしまして検討させていただきたいと思えます。本当にどうもありがとうございました。

以上で、第22回市民動物園会議を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

以 上